

恵泉女学園 大学報

Keisen University
2006.3

① 学部ニュース

考える葦

② 恵泉女学園生

③ キリスト教センターから

メディアセンターから

研究所便り

④ 行事報告

多摩フェスティバル

インターンシップ

多目的アワー

⑤ 恵泉トピックス

恵泉スプリングフェスタ2006

キャッチコピーコンテスト

『第30回地球賞』受賞

⑤ 編集後記



われわれの課題

今年度のはじめ、本学は園芸短期大学を統合し、学科を再編して、二学部体制に移行した。大学の運営のあり方も大きく変わった。五月には、はじめての試みとしてスプリング・フェスティバルが行われた。結果を評価するには時期尚早であるが、少なくとも運営に大きな支障はなかったと思われる。目立たないところでいろいろな労苦を背負った教職員や学生諸君のおかげである。心から感謝したいと思う。

来年度に向けて、われわれの課題はいったい何だろう。一つは新しい二学部との連携を考慮して大学院を再編することである。これは一つには恵泉女学園大学の特徴を天下に示す意味にもなるし、実際修士号を取得できる機会を開いておくことは、学生にとっても有益なことである。すでに新しい構想に向けて準備が着々と進められている。もう一つは、研究所の整備である。現在、平和文化研究所と園芸文化研究所があるが、さらに、キリスト教文化研究所を加える準備を進めている。これは恵泉のもう一つの柱であるキリスト教の分野での研究体制を整備するためであるが、行く行くは三研究所が密接な連携をとって研究を進めるために一研究所にまとめ、その中に三つの研究

部門を持つ形に整備したいと考えている。

やや長期的課題としては、将来の園芸をどうするか、という問題がある。学部の四年制プログラムとして、園芸のカリキュラムをどのように整備するのかという課題で、これは園芸を、自然科学的要素を残しながら人文学的専門分野の一つとして確立することが可能か、という課題でもある。特に若手の教員たちの奮起をお願いしたい。

もう一つの課題は、成人教育の分野で、地域とも密接に連携しながら、恵泉の知的、人的資源をいかに活用して貢献するかである。18歳人口の減少のことを思えば、いまや本腰を入れて構想を練らなければならない時点に来ていると思われる。

この春われわれは、新しい学長を迎える。新学

長のもとで、新たな理想に向かって、これらの課題に一步一步取り組んでいきたいと願っている。



学長・学園長
大口邦雄

<<< News

人文学部

「日本語能力」プログラム

学生の文章能力向上を目指した『日本語能力』の授業には、全ての学科を対象にする『日本語能力I』と日本語日本文化学科の学生を対象とする『日本語能力II』がある。

日本語能力Iは、基本的な日本語の知識を学んだ後、案内文、手紙文など日常生活に必要な文章を書き、最終的には学術的レポートが書けるようになることを目指す。日本語能力IIは、主に名文を読むことを通じて、よい文章とは何か、どうしたらよい文章が書けるのかを、学生自身に模索させることによって、より高いレベルの文章力を体得させる。授業では、文章技巧を学んだり、名文を模倣し

た文章を書いたりするだけでなく、日本語の知識を応用した文の作成を楽しみながらできるよう、
「音の表現法」箏・尺八演奏会にて 箏(こと)の演奏体験
アナグラムや川柳などにも挑戦する。



「音の表現法」箏・尺八演奏会にて 箏(こと)の演奏体験

学生一人一人きめ細やかな指導ができるよう、それぞれークラス最大25名という少人数制である。初めは不慣れだった学生でも、繰り返し文章を書くことで、最終的にはある程度まとまった文章が書けるようになることを実感している。

(人文学部専任講師 武田知子)

<<< News

人間社会学部

CSL (コミュニティ・サービス・ラーニング) への取り組み



恵泉女学園大学は学生の体験学習を重視してまいりましたが、2005年度4月より更にその枠を広げ学生にとって身近な地域社会における体験学習、言い換えれば

私達のコミュニティにある福祉の活動、環境を保護する活動、国際交流の活動などに参加し、そこから学ぶプログラムを始めました。ボランティア活動に近いものではありませんが、コミュニティにサービスを通して、普段気づかないでいた地域社会にある各種の活動とその組織を知り、そこで働く人々や活動を通してふれ合う人々と出会い、更に活動を行う自己について考える機会を得ることをこのプログラムはめざします。本年度は一年次の学生を対象にスタートしましたが、学内での準備の講義の後に希望する活動場所の見学を実施し、自己の活動場所・内容・時期を決め、準備期間を経て実際の活動I、II、IIIと継続的に取り組むことが期待されます。「継続は力なり」と申しますが学生達がCSLの活動に自己の力を発揮し根気よく取り組むことを願っています。

(人間社会学部教授 山本悦子)

考 え る 葦



『傷ついた葦』

人文学部教授
川上雅弘



聖書に出てくる葦の中でも英語でreed (古英語でhreed) と訳されている植物の種類は、手元の小辞典によると、ユーフラテス下流、ナイル上流およびヨルダンの川辺に群生するダンチクを指す、とある。丈は6mに及び、葉は広く、灰緑色、花は穂状に7月頃咲く。沼地や川辺に育ち、その茂みには獣も住むという。「葦」という言葉の響きの中に私は自ずとイエスの生涯に導き入れられるものがある。

「傷ついた葦」は、心痛める人を表象し、これを「折れることもなく」、神のいたわり、慈愛が注がれるのである。葦の茎は杖にされたが、折れやすいので、頼るに足らぬ人の象徴とされた。イエスが死刑の判決を受けた後、兵士達によってひどい侮辱を受け、右手に葦の杖を持たされ、さらにはそれを取り上げられ、それで頭をたたき続けられたのである。私の魂を打ち続ける光景である。



沖縄フィールド・スタディにて (2005.9)



研究奨励金を受給して

国際社会文化学科3年
熊谷美雪

私は卒業論文でハンセン病療養所・沖縄愛楽園を創設した青木恵哉先生について

書こうと思っています。そのため沖縄に足を運び、青木先生と交流を持っていた入園者

の方々に聞き書きをしたかったので、三年のこの春休みには実行に移せないだろうと諦めていました。そんなとき学部の研究奨励金のことを知り、これを利用しない手はないと申し込んだので、おかげさまで奨励金をいただくことができて、2月上旬に沖縄へ行くことができました。卒論の

土台となるようなお話を聞くことができて、一層頑張りたいとの思いが強くなりました。

人文学部奨励研究一覧

申請者氏名	研究テーマ	指導教員
清水琴音 松浦由佳利 佐々木麻衣 増田みりか他4名 周麗娜 相澤牙香他8名 高橋朋子 石崎めぐみ他2名 仲田絵理他3名	CS(顧客満足)への企業の取り組みおよびマナー習得 英語圏の大学進学準備のための英語集中研修参加 「韓国のハンセン病」についての定着村事業研究 ドイツ日本語教育実習 満州時代の日本企業と中国国民の聞き取り調査 「源氏物語絵巻」の舞台を歩き、特別展を見学 オーストラリアを生で体験し、国際交流の意味を探す 韓国文化の学習と韓国語習得 東アジアと日本の交流の過去から現在までを考察	藤野早苗 藤野早苗 澤井啓一 秋元美晴 梅澤ふみ子 稲本万里子 岩佐玲子 梅澤ふみ子 李省展

人間社会学部奨励研究一覧

申請者氏名	研究テーマ	指導教員
守屋知美 玉木杏奈他6名 熊谷美雪 田中涼子 岩井未央 渋谷桜子 滝澤由佳里 飯島恵美 塚原早苗 岡本有貴 西山紀子	ジャカルタ漁港の環境問題について フィリピンの開発・貧困について 青木恵哉と愛楽園 インドネシア中部ジャワの地域おこし 都市による雨水利用とその国際貢献 可食・非可食を選択させる動物観 伝統的サトウキビ栽培と近代の精糖の歴史について 動物園の環境調査 観光地としての知床、持続可能な開発についての調査 ディズニーランドにおける環境問題対策調査 小笠原諸島父島のエコツアー現状と可能性	大橋(谷本) 大橋正明 川島堅二 谷本寿男 谷本寿男 新妻昭夫 新妻昭夫 松村正治 松村正治 松村正治 篠田眞理子

私はU.C Davisで勉強している間に台湾から英語を勉強しに来ているという学生に会いました。お互いに母国語を持っていないながら第二言語として英語を使って会話をする。なんだか少し不思議な気持ちですが、とても素敵だなと感じました。そして、もっと自分の気持ちをきちんと伝えられるように英語を勉強しようと思いました。今では、図書館で英語の雑誌を読んで勉強したり、英語を勉強するということに以前よりもまして興味を持ち、楽しいと感じられるようになりました。



きっとこれはデビスに行ったら実際に自分で経験し、英語をもっと勉強したいと感じることが出来たからだと思います。

また、1ヶ月間のホームステイを通して、今まで自分がどれだけ親に甘えて生活してきたかに気付きました。自分が使った食器を洗って片付けたり、自分の洋服を洗濯したり、一見簡単そうに思えることが、どんなに大変で面倒くさいことなのかに気付くことが出来ました。以前は母に任せきりでしたが、アメリカから帰ってきて自分から母の手伝いをするようになりました。アメリカで一人の大人として自立しなければならなかった



アメリカ語学研修を体験して

英語コミュニケーション学科1年
三和沙知

ことは、私の今までの甘い考え方を変える良い機会になったと感じています。

アメリカでの語学研修は楽しいことばかりではありませんでしたが、アメリカでの経験を生かし、これからはもっと英語を勉強し、さまざまなことに自分から進んで取り組んでいきたいと思っています。

<< Christian Center

キリスト教センターから



「キリスト教センターってどこですか？」

学生の口からよく耳にする言葉だ。キャンパスの一番奥に位置するチャペルは知っ

ているものの、その階下にキリスト教センターの扉がいつも開かれていることへの認識は薄い。

しかし、一度足を運べば冒頭の言葉と並んで、「ああ、ここにいと落ち着くなあ。もっと早くこの場所を知っておきたかった。」という声もよく聞く。

一人でも多くの方が安心して集うことができるような働きを今一度試み、笑顔であふれるキリスト教センターがチャペルでの礼拝と共に、学生・教職員、そして卒業生にとっても、人とそして神と出会う場としてあり続けたい。

(キリスト教教育主任 宇野 緑)

<< Media Center

メディアセンターから

春休み中に図書館の蔵書検索システム(OPAC)が新しくなりました。資料の検索画面が変わり、検索結果一覧がわかりやすくなりました。4月以降My Library機能が追加される予定です。これにより、図書館からのお知らせや自分の利用状況、リクエストした本の状況などがわかるようになります。個人情報の保護に留意しつつ、サービスの向上に努めていきたいと思っています。

(メディアセンター図書課)



<< Institute

研究所便り [平和文化研究所・園芸文化研究所]

本学の特色ある教育研究を公開・支援する 研究所のご案内 公開講座受講申込は、3月13日(月)から

平和文化研究所と園芸文化研究所は、同じような組織名ながら、それぞれに目的と運営委員会を構えております。

平和文化研究所は、＜平和をつくる＞シリーズで、公開講座の記録を発行し販売しております。また、平和・キリスト教・現代社会問題などの公開講座を開催しております。

園芸文化研究所は、園芸関係の論文等をまとめた『園芸文化』



コーラスワークショップ「アカペラでアメリカ音楽を体験しよう」

を発行しております。

園芸に関する教育研究活動を中心に据えた公開講座を開催しております。

また両研究所とも、教員の研究活動への助成を行い、教員の強い研究活動への意欲に支援を行っております。

2006年度春期公開講座の受講申込は3月13日(月)より開始します。講座の案内は本学Webページ又は

公開講座パンフレットをご覧ください。パンフレット御希望の方は、FAX・Webページ・はがきで御請求ください。

園芸文化第2号

目次

巻頭言—惠泉園芸の再生のために
GardeningにおけるFruit Gardenとわい性台木
利用果樹の人工形整枝
世界のフラワーショウとガーデンデザイン
異国趣味と人工性のはざま
—現代ドイツにおける室内植物愛好の変遷—
BBC ガーデナーズ・ワールド・ライブ・2003に出品して
ベトナムのツバキ・最新情報
文化としてのバラ
資料紹介「フローラの娘たち」
博物館と園芸文化
惠泉花の文化史:クレマチス
惠泉野菜の文化史:ニンジン
惠泉果物の文化史:キイチゴ
惠泉樹の文化史:ヤマブキ

園芸文化研究所研究助成報告(プロジェクト研究の部)

19世紀英国における園芸文化の大衆化の研究
野菜の地方品種と地域生活の関わりに関する研究
小果樹類遺伝資源の収集と特性に関する研究

園芸文化研究所研究助成報告(一般研究の部)

緑化制度が戸建て住宅地の
街路空間に及ぼす影響に関する研究
大学病院における園芸ボランティア活動の実態と改善点
生涯学習としての園芸文化教育カリキュラム開発
日本における宿根草花壇の可能性について

2004年度行事報告

2004年度公開講座の報告

2005年度公開講座の日程と内容

園芸文化研究所報告「園芸文化」投稿規程

行事報告

2005.11-2006.2



今年も大盛況 多摩フェスティバル

2005年度多摩フェスティバルを次の内容で開催しました。

開催日時 2005年11月5日(土) 10時～18時、6日(日) 10時～17時
場 所 恵泉女学園大学 多摩キャンパス

2005年のテーマは、「虹」"Looking for your rainbow"。来場者数は、約2,200名でした。展示・発表・演奏、アジアの各国料理、学内で収穫した無農薬の農産物など、さまざまな活動を通してお客様と恵泉との間に架け橋が築かれました。

学生達の活発な発表・模擬店のほか、大学院シンポジウム・保証人懇談会・教員によるコンサートなど、大学全体で多摩フェスティバルを行いました。今年で3回目となるエコ容器(土に還元)を使っの模擬店も、お客様のご協力のうえ、すっかり定着したエコ学園祭となっています。

インターンシップ実施報告

在学中に企業等での就業体験を積む「インターンシップ(以下IS)」が最近各大学で盛んに行われています。報酬を目的とするアルバイトと異なりISは興味のある仕事・企業への理解を深めることを目的に行われます。本学では3年春学期「インターンシップ入門」開講、主として夏休みに企業での就業体験という流れをとっています。05年夏休みは約40名がISに参加しました。IS先は官庁、ホテル、航空その他多岐にわたっています。ISの経験は、就職活動での企業選び・職種選び、そ

して残りの学生生活で学ぶべきことを明確にする指針になります。「働く自分が見えてくる」絶好の機会ですから新3年生の皆さんも積極的に参加してみましょう。

2005年インターンシップ受け入れ先

受入機関／派遣場所	
(株)日本航空インターナショナル 羽田空港	ヒルトン東京
(株)日本航空インターナショナル ホテル日航サンフランシスコ	品川プリンスホテル
(株)日本航空インターナショナル 成田空港	多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター
農林水産省生産局 野菜課	クオール株式会社
農林水産省生産局果樹花卉対策室	株式会社UKK
ホテル日航東京	(株)ショップ・アンド・チェック・ジャパン
東京都庁 福祉保険局高齢社会対策部介護保険課	(株)ニューオータニ
厚生年金スポーツセンター	(株)バンダイ
オークラフロンティアホテル海老名	(株)日本カラーデザイン研究所
湘南ホテルマネジメント(株)ホテル横浜ガーデン	住信ビジネスサービス(株)
(株)横浜グランドインターコンチネンタルホテル	花卉農家
(株)小田急トラベル	株式会社ピゴ東京
(株)緑化センター	グラクソ・スミスクライン株式会社
JICA八王子国際センター	(株)ウインローダー

多目的アワー

「多目的アワー(木曜日 12:45～13:35)」は学生生活をより充実したものとするための、恵泉ならではのユニークなプログラムです。教員と学生グループが中心になり企画、運営をしています。短い時間ですが、講演会、コンサート、学園長・学長と語る会、信和会行事、などが催されます。

2005年度 秋学期 多目的アワー一覧

- 10月13日 ● 英語スピーチコンテスト
The 36th Helen Dalton Public Speaking Contest
- 10月20日 ● 河井道メモリアルウィーク
講演会「暗くなれば見えないもの」
講師：恵泉女学園中高校長 安積力也先生
- 10月27日 ● 日本語日本文化学科特別講演会「古代韓国と万葉集」
講師：韓国新羅大学校教授 崔光準先生
- 11月10日 ● 収穫感謝祭礼拝
- 11月17日 ● ランチャイムオルガンコンサート
演奏：柳沢文子氏
- 11月24日 ● 人文学会講演会「描かれた女性たち」その2
講師：池上英洋先生(本学人文学部助教授)
- 12月1日 ● 特別公開講座「はじめての日本舞踊」(舞踊と講演会)
講師：花柳輔蔵氏(舞踏家)
● スマトラ沖津波被害と復興支援に関する報告会
- 12月8日 ● マナー講座
講師：斎藤瑞穂氏(キャビンアテンダント)
- 1月12日 ● 2005年度長期フィールドスタディー時帰国報告会
国際社会文化学科3年土屋真理子、2年寺岡久美子
- 1月19日 ● 海外渡航時の危機管理
講師：山下寿人氏(日本アイラック株式会社)

恵泉トピックス

恵泉スプリングフェスタ2006 開催のお知らせ

恵泉女学園大学では恵泉教育の3本柱である「キリスト教」「国際平和」「園芸」をテーマとした『第2回恵泉スプリングフェスタ』を開催いたします。同窓生、学園関係者のみならず、高校生や受験生、また地域のみならず、さらに恵泉の教育やそれぞれのテーマに関心をお持ちのすべての方々に、広く参加を呼びかけたいと思います。基本的に入退場自由、予約不要です。

日時 5月20日(土) 10:00～16:00



キャッチコピーコンテスト 審査結果

本学入試委員会では、学生を対象として「恵泉キャッチコピーコンテスト」を実施しました。予想をはるかに超えた252点の応募作品の中から、以下の入選作を決定、優秀作品は12月中旬から1か月間、小田急・京王・西武新宿・多摩モノレール各線車内ポスターに利用しました。また、「恵泉カレンダー2006」にも採用、今後いろいろな媒体で使う予定です。

優秀賞

自然に会える。あなたと会える。笑顔になれる。

(日本文化学科2年 日下部容子)

佳作(順不同)

大学に埋もれないあなたを、恵泉。

(国際社会文化学科4年 大橋明香)

ブランドよりプライド、恵泉女学園大学

(国際社会文化学科4年 大橋明香)

私たちの世界はここから変わる。

(日本文化学科3年 村上七海)

落ち着くね、恵泉。

(英米文化学科2年 佐藤香子)

自分を好きになれる大学「恵泉」

(人間環境学科4年 塩田麗子)

発芽を助ける恵みの泉

(日本文化学科2年 山本真央)



人文学部 森田進教授 『第30回地球賞』受賞

本学人文学部日本語日本文化学科の森田進教授が、その編著『在日コリアン詩選集』(佐川亜紀共編・土曜美術社出版販売)で詩誌『地球』主催・第30回『地球賞』を受賞しました。

■ 編集後記

多摩キャンパスが与えられて今年の秋で20年になります。先に短大英文学科が移転し、1年半後に大学が開学しました。記念すべき年を迎え、「大学報」も衣替えしました。今後は年3回、学生と保証人にお届けする予定です。



恵泉女学園大学

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1

TEL: 042-376-8211 FAX: 042-376-8218

<http://www.keisen.jp>

mobile <http://m.keisen.jp>



春の花

パンジー

* pansy

パンジーという名はフランス語で思索を意味するpensée(パンセ)を語源としているが、これはうつむいたような蕾の姿を物思いにふける人にみなしてつけられたものである。冬の厳しい寒さの中、思索の場である大学を明るく彩ってくれている。

(人間社会学部助教授 樋口幸男)